

常照

第803号

『われかならず聖なるにあらず
かれかならず愚かなるにあらず
ともにこれ凡夫ならくのみ』

全国に発出されていた緊急事態宣言が全面解除され、自粛ムードも少しずつ緩んできた五月の末、若い女子プロレスラーの死亡が報じられ、会員制交流サイト、いわゆるSNSへの誹謗中傷の投稿による自殺ではないかと話題になり

ました。あるテレビ番組での彼女の言動が許せないとの理由で、ネット上での非難・批判に深く傷つき、自ら命を絶つたということでした。

このようなネット上の誹謗投稿が原因と思われる自殺の事例は海外でもおこっており、いくつものテレビ局が取り上げて放送していました。

書き込む側は、自分なりの正義を怒りにまかせて書いてしまう。相手に自分の姿が見えないことがそれに重なって、言葉も過激になり暴走しがちです。また、他人の書き込みに便乗し、考えもなしに軽い気持ちで「ウザイ」「消えろ」などと簡単に書き込んでしまう人

もいるそうです。

書き込む人の多くは一度だけの書き込みですが、特定の何人かが何度も書き込むため、書かれた側はその全体数から、世界中の人から自分を否定された気持ちになり、追い詰められてしまうそうです。

さて、表題の言葉は聖徳太子が制定された十七条憲法の第十条に出てくる言葉です。

聖徳太子は「日本のお釈迦さま」といわれるほど、日本の仏教にとつてはなくてはならないお方なのです。

親鸞聖人も太子を大変敬われ、ご自身の人生の大事なときには、太子ゆかりのお寺にお参りされて

います。それで、浄土真宗のお寺にはかならず聖徳太子の像が安置されているのです。

十七条憲法を読むと、太子が仏教の精神を非常に大切にされたことが分かります。

この「われかならず……」は、「私が尊く（道理をよくわきまえていて）て、あなたが愚かである、ということはない。ともにただの人間なのだから」という意味でしょう。

お互い、特別に賢くて偉いわけではない、普通の人間同士だから正しいときもあるし、間違っているときもある。

また太子は同じ十条の中で「怒

りを捨てましょう。他人が自分の意見に従わないことを怒ってはいけません。人にはみな心があり、心にはそれぞれ執着があります。あなたが正しいと思うことも、私にとってはそうではない。その反対もまた同じであります」と仰っています。

怒りを捨て、相手の身になって考えよう。皆それぞれに思うところがあって、「正しい」ということも、それぞれに違いがあるのだから。

人間は「正しい」と思っ行って行うことほど、気をつけねばならない。自分中心の思いでにぎった善・正義は大変危ないのです。

また、私たちが普段、人間の行動をいうときは、精神と肉体Ⅱ心と体との二つであらわしますが、仏教では人間を身(からだ)・口(ことば)・意(こころ)の三つであらわします。身口意(しんくい)の三業といえます。

「言葉を話す」という特別な機能により、人間の社会は大いに発展してきました。しかし、それは常に良い方にはたらくばかりでなく、しばしば他人を傷つけたり、争いに発展してしまうことがあります。仏教で教える十悪(十の悪い行い)のうち、四つは口業Ⅱ言葉の悪であります。「言葉には十分注意をしてください」とのお釈迦さまの思

召しであります。

いずれにせよ、自分の顔や姿が相手に見えないのをいいことに、無責任な正義を振り回して人を傷つけたり、ましてや死に追いやってしまうようなことは決してあつてはなりません。

そんなことが二度と起こらないように、そして自分自身そうならないように、太子のお言葉に耳を傾けましょう。

ナマングブツ。ナマングブツ。



十二月の

常例布教(ご法話)のご案内

○前期 十二月七日(月)～十一日(金)

休 座

○後期 十二月十三日(日)～十六日(水)

北海道教区後志組 照覚寺

講師 佐々木 法 雨 師

○場 所 小樽別院内

○時 間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますようお願いしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松二丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (〇三三四) 二二一〇七四四番

FAX 二九一四〇八〇番

テレホン法話 二七一六六一六番